

小さなチュウくんからの大きなプレゼント

伊東 里緒

森の奥に小さなネズミのチュウくんが住んでいました。チーズをつくるのが楽しみでした。チュウくんの作るチーズは、少し甘くて、優しい塩気があってとても美味しかったです。チュウくんには小さな夢がありました。それは、みんなが寒い冬の日に少しでもあったかく過ごせるようなチーズを作ることでした。チュウくんは、森の動物たちが寒い日に心も体も温まるように、ひとつひとつ丁寧にチーズを作っていました。

ある冬の日、チュウくんは思いました。「今日は外にチーズを出してみよう。」その日は特に寒く、冷たい風が吹いていました。チュウくんは、家の前に小さなテーブルを出し、そこで作ったチーズを並べました。チーズの横には、小さなキャンドルを灯して少しのあたたかな光を放っていました。テーブルの上にあった小さな木にはこう書いてありました。「寒い日には、このチーズを食べて心をあたたかくしてね。」

その夜、リスのリリちゃんが森を歩いているとチュウくんの家の前に何かあるのに気づきました。テーブルの上に置かれたチーズとふわっと香るキャンドルの灯り。リリちゃんは寒さを忘れて、そっとチーズを一口食べました。「わあ、これおいしい！」チーズを食べると、リリちゃんはぽっと温かくなった気がしました。心の中に小さな灯がともったような感じがして、すごく嬉しくなりました。

次の日、リリちゃんはそのことをハリネズミのハリーに教えました。「チュウくんのチーズを食べたら、心があたたかくなるんだよ！」ハリーは興味を持って、次の夜にチュウくんの家に行きました。すると、ハリーもチーズを食べて同じように温かい気持ちになったのです。

それからというものの、次々と動物たちがチュウくんのチーズを食べにやってきました。みんな、寒い森の中で心をあたたためるためにチュウくんのチーズを味わいました。食べる

たびにどこかしら心がホッと温かくなり、動物たちは自然と笑顔になりました。

ある晩、フクロウのロウおじいさんもやってきました。ロウおじいさんはとても年を取っていて、目があまり見えませんでした。でも、チュウくんのチーズを一口食べると静かに言いました。「これだよ、チュウくん。こんなに温かいチーズは、まるで心の中に小さな灯がともるようだ。」その言葉を聞いて、チュウくんはとても嬉しくなりました。自分の作ったチーズが、誰かの心を温める力を持っているんだとはつきりと実感できたからです。それから毎年、冬が来るたびにチュウくんはチーズを作り続けました。森の動物たちは、寒い日が続いても、チュウくんの家に集まってみんなと一緒にチーズを食べて心を温め合いました。チュウくんの小さなチーズ屋さんには、いつしか森の人々の大切な場所となり、みんなの心に温かな灯がともり続けました。